



ノーベル平和賞を受賞したケニアのワンガリ・マタイさんは「もったいない」として日本語を世界の共通語「Mottainai inai」にしてほしいという運動を進めている。

「もったいない」といふ言葉は世界中のどの言葉にも訳せない、日本独特の言葉だそうだ。マタイさんは地球温暖化の急速な進展に歯止めをかけるべく三つのR運動(REDUCE, REUSE, RECYCLE)減量、再利用、再生利用)の先頭に立っているが、三つのRをまとめて表現できるのは「もったいない」だけだといふ。

一方、最近著名な食品を提供する多くの会社で賞味期限切れ等を改ざんし非難を浴びている。売れ残りを再利用したり、虚偽表記するのはけしからんとはいった。食の安全という見地からも指摘は当然のことで

Mottainai
= もったいない



草野 義輔

味期限は切れていても消費の期限は過ぎていなかったのだと思ふ。おそらく各企業が再出発した後の対応は、売れ残りはすべて捨てる、という態勢で臨むと想定される。

しかし、また食べられるものが捨てられてしまう、という事実にもっと目を向けるべきではないだろうか。使えるものは大切に再利用しよう、という三つのR運動の精神からは食べられるものを捨てるとは何事か、もったいない、とはいいたがる。賞味期限は期限として食べられるものを捨てなくても済むような仕組みに見直す必要があるのではないか。世界的な食糧危機は目の前、という報告も耳にしている。

だが、問題になった食品で体を壊した、というニュースは今もいろいろ聞いている。多分賞